

運動の楽しさに触れ、進んで学習に親しむ体育学習を目指して
 ～「体づくり運動」の学習を通して～

発表者 都農町立都農南小学校 福田 哲也
 司会・進行 新富町立新田小学校 財津 吉正
 記録 日南市立吾田小学校 前田 雅樹

発 言 者	内 容
都於郡小 坂尾先生	「はじめ・なか・おわり」の時間毎に行う運動の整理をしたとあるが、どのように整理したのか知りたい。
発表者	「はじめ」では、準備運動の行い方。「なか」では、活動を前半・後半で分けるときの効果的な流れや、アイランド型でのやり方を整理した。「おわり」では、本時のふりかえりの仕方を例示した。
住吉小 東先生	成果の中に、運動を活動3分・話合い1分・活動3分と書かれているが、はじめ・なか・おわりの中にどのように入れられて、またどのような話合いが行うことができたのかを知りたい。
発表者	主に、「なか」の所でこのような扱いを行った。4つ運動がありましたので、1つの運動に対して7分間の活動になる。それを移動の時間を含めて8分取って、8分×4つの運動で32分間の活動になる。はじめの段階では、準備運動と本時の説明をできるだけ簡易化し運動量の確保に重点を置いて行った。1分間の話合いの中では、得意な子が「もっとこうしたらいいんだよ。」とやり方の説明をしたりだとか、できないと言っている子に対して「ここに気をつければいいよ。」といった声かけが見られた。ただ、3年生の授業だったので説明する力が足りずに1分間の中では話合いがなかなか進まない様子も見られた。そうならないために、ここについて話し合うとよいのではないかという視点を与えるなど、1分間でも考えを深めたり広めたりすることができるような手立てを考えているところだ。
川南小 川崎先生	4つの動きを一気に教えていくのは難しかったと思うのですが、どのような単元計画で活動してきたのか知りたい。
発表者	資料にある研究授業は、単元計画の7時間目になります。体を移動する運動という授業で、最初のオリエンテーションから1時間に1つずつ紹介してやってきた。他にも運動例はあったが、その中でも子ども達からやりたいと声があがったものや、学級担任が学級の児童実態を踏まえて何が必要かと考えて運動を取り上げて行った形です。

<p>都城市立東小 鎌田先生</p>	<p>4つの運動をどのようにして子ども達を選んでいったのか。それと、成果の中で1分という短い話合いの中でどのような形で効果的に話合いを進めていかせたのか。</p>
<p>発表者</p>	<p>4つの活動については、子ども達が自分で行きたい所を選んだといった形ではなくて、最初から4つ活動の島を作っておいて、そこを順番に回っていくことで全ての活動を体験できるようにした。その理由は、学級担任が体を移動する運動と何かを組み合わせるといような形で授業を考えていた。だから、子ども達に体を移動する運動を主にして、もう1つそこに何かを組み合わせさせて作ろうという形で行った。いろいろな組み合わせの中で、どれがしたいかなという話合いをして選んだ運動という形です。本時の中では選んでいない。</p> <p>視点の与え方については、動きのポイントを例示するという方法が1つ。もう1つが、「ジャンプするときには足の着き方をどうすればいいよ」といった注目すべき体の部位や動かし方のキーワードを例示し、それを使って話し合わせる事ができればよいと考えている。</p>
<p>東海小 土岐先生 発表者</p>	<p>1分間の話合いの中で、話し合うきまりはあるのか。</p> <p>話合いを始めるときには、各グループのリーダーから話し始めるといったものがある。なぜかという、自由に話合いをさせると、誰から言うかということだけで1分間が過ぎてしまうこともあったからである。</p>